

子どもが主体的に学ぶ授業づくり
～問題意識を高める学習問題作り・「まとめる」の展開の工夫～

1. 設定理由

八千代市立大和田南小学校は社会科を40年以上研究してきた学校である。この40年の社会科の歴史を支えたのは「問題解決的な学習」であり、新学習指導要領から求められている「主体的で対話的で深い学び」の実践をしてきた先進校であるとも言える。これからの現代社会を生き抜く資質と能力を磨いていくためには、この問題解決的な学習をより深めていくことが重要であると考えた。

そこで本校が取り組んできた学習過程の中で、特に重要な「入口」の学習問題作りと「出口」の「まとめる」の展開を重点に置き、「子どもが主体的に学ぶ授業づくり」の研究を主題として設定することにした。

2. 研究仮説

《仮説》事象観察・問題構成の場面において、問題意識を高めて学習問題を設定することによって、自力解決・「まとめる」の時間まで意欲が継続し、子どもたちが主体的に学ぶ授業づくりへと繋がるだろう。

3. 研究内容

- 事象観察・問題構成場面の工夫
- ノートの作り方・ノート作りのステップをもとにしたノート指導の充実
- 「まとめる」の展開の工夫

4. 結論

- 問題意識を高めて学習問題を作ることに重きを置くことで、単元としての問題意識が継続され、主体的な自力解決や「まとめる」展開の深まりに繋げることができた。
- ノート指導において、調べたことの分析を十分にさせることで、自分たちの考えを整理させる時間になり、子どもの主体的な学びを促すことができた。
- 「まとめる」の展開では、新たな視点を与える教材を示すことで、子ども達の考えを深めることができ、子どもが主体的に学ぶ場となった。

1. 研究主題

子どもが主体的に学ぶ授業づくり
～問題意識を高める学習問題作り・「まとめる」の展開の工夫～

2. 主題設定の理由

(1) 現代社会の課題から

大量の情報があふれ、様々な問題が複雑に絡み合っている現代社会。これからの社会を生き抜くためには、自ら考え、問題を整理し、答えを導き出していく力が不可欠である。この力をつけるためには、従来のように知識を覚え、状況に応じて活用していく「知識習得型」の学習では不十分であり、自ら問題を見つけ、課題を設定し、自分なりの考え方や方法で解いていく「問題発見・解決型」の能力を今のうちから養っていくことが求められている。

以上のことから、社会科で問題解決的な学習を進めていく必要があり、子どもが主体的に学ぶ姿に、現代社会を生き抜く「生きる力」を育むことができると考える。

問題解決的な学習を進めるにあたり、最も重要なのが問題構成の時間、つまり学習問題を作る時間である。資料や発問から子どもたちにどう問題意識をもたせていくのかが大切で、問題意識の継続が子どもの主体的に学ぶ姿になっていくのである。「入口」と「出口」を通して「子どもが主体的に学ぶ授業」になったかが見えてくるため、この2つを重点に本主題を設定した。

(2) 児童の実態から

(大和田南小学校6年1組 男子18名 女子16名)

八千代市立大和田南小学校は、40年以上にわたり生活科・社会科の研究をしてきた学校である。今回の実践も、本校の6年生が5年生のときから実践した内容のものである。

本校の子どもは、継続した研究実践の成果もあり、社会科の授業に対し、比較的意欲的に参加する子どもが多く、日頃の学習から社会科の学習が楽しいと感じる子どもが多くいると言える。しかし、近年の教員の若年化や入れ替わりの激しさから、社会科の授業力低下が目立つようになり、それに伴い子どもたちの学習に対する意欲も少しずつ下がっていったように感じる。立て直しを図るため、まずは調べ学習のノートの書き方から再確認させ、調べ方を指導し、少しでも主体的に活動させる授業を試みるも、なかなか最後の「まとめる」まで子どもたちの意欲が継続していかなかった。

そこで、「子どもたちの意欲が最後まで持続する授業とは何か」本校で議論を重ねた結果、問題解決的な学習をする上でやはり大切なのは、原点の問題作りの場面であると本校の児童の実態から明らかになった。そして現在、「問題意識を高める学習問題づくり」を研究重点にし、子どもたちの問題意識を高め、最後まで意欲が持続する授業づくりに取り組んでいる。

3. 研究目標

問題解決的な学習において、子どもの問題意識を高めて学習問題を設定したり、子どもたちに自力解決で調べたことを進んで発表させたり、さらなる疑問や考えを導き出させたりすることで、子どもが主体的に学ぶ授業づくりができるようにする。

4. 研究仮説と手立て

《仮説》事象観察・問題構成の場面において、問題意識を高めて学習問題を設定することによって、自力解決・「まとめる」の時間まで意欲が継続し、子どもたちが主体的に学ぶ授業づくりへと繋がるだろう。

手立て①：事象観察・問題構成場面の工夫

問題構成の場面は問題解決的な学習の出発点であり、子どもたちの「なんでだろう」「どうしてだろう」という疑問を解決しようとする「問題意識」をもたせて学習問題を設定する必要がある。「問題意識」を高めることで意欲を持続させ、主体的な学びを促していくと考える。そこで教員の手立てとして大切なのが資料や発問の工夫であると考えた。

＜資料の工夫＞

①子どもたちが資料を集める	米の袋、食品の産地調べなどの身近な資料を使い、子どもたちへの学習意欲を高めさせる（ねかせ）
②資料の大きさ	大きいほど子どもに与えるインパクトも大きく、興味を引かせる演出にもなる
③矛盾のある資料	矛盾のある資料を与えることで「なんで?」「どうして?」という疑問が生まれる
④資料を出す順番	中心資料を出すまでに、どのような資料が必要か、順番はどうか、「問題意識」を醸成させるプロセスになる

＜発問の工夫＞

事象観察の際に、資料を見る視点を与える発問をすることで、子どもたちの「気づき」を演出させることができる。また、学習問題を作るまでで、与えられた資料から疑問が生まれたとき、「なんでかな?」「どうしてかな?」と子どもたちの思考を掘り下げる発問をすることにより、問題意識はさらに高まり、子どもたちの「知りたい」「調べたい」という意欲を呼び起こす。

つまり、子どもたちの自発的な学びを促す資料や発問をすることで問題意識が高まり、自分たちの疑問から作られた学習問題の設定が問題意識を継続化させ、主体的に学ぶ姿にさせていくと考える。

手立て②：ノートの作り方・ノート作りのステップをもとにしたノート指導の充実

ノートは子どもの学習の足跡であり、子どもの思考が見えるものである。調べたことを書くだけでなく、子どもがその事実からいかに考えることができているか見るものでもある。

A4のノートに縦に線を引いて2つに分け、左側を「調べた事実」、右側をその事実から「考えたこと・疑問・予想・感想」として学習を進めた。指導の重点としたのは右側の分析で、自分の考えを「ノートで深めること」が主体的で対話的で深い学びに繋がると考えた。また、問題意識が高まる学習問題の設定が主体的な自力解決の前提にあると考える。

手立て③：「まとめる」の展開の工夫

○5年「これからの食料生産とわたしたち：バーチャルウォーター」

○6年「明治の国づくりを進めた人々：ロールプレイ」

子どもたちが学習のまとめをした後、新たな視点から物事を考えさせることで、授業後も問題意識の継続化がなされ、主体的に学び考える子どもが育っていくと考えた。

社会科授業の学習過程

「なかせ」「つかみ」「調べる」「まとめる」

□子どもが「思い」「願い」をもって学習の出発点に立てるようにする

- ・関心ごとのはじまり
- ・気になる関心ごとの調べ、調査
- ・問題意識のあふれる出発

- ・自分の家で食べているお米調べ
- ・自分の家で乗っている車調べ
- ・スーパーで売られている食品の産地調べ

など

□事象観察

- ・一人一人の「思い」「願い」を引き出す。
- ・高まった問題意識の中で「みんなのめあて」をもち、それに対する自分のめあてをつかむ

□問題構成

- ・学習問題を設定する。
※興味・関心がもてるもの
※学習の見通しがもてるもの
※意志決定ができるもの

- ・事象に対して驚きや疑問をもち、学習問題を立てる
中学年・・・驚きから
高学年・・・矛盾から など

□予想・計画

- ・学習問題解決のために調べる内容や方法の見通しをもつ

□自力解決

〈自力解決〉

- ・多様な方法で調べる
- ・自分なりの見方・考え方をもち

- ・教科書や資料集から、大切な情報を取捨選択する
- ・課題に対する自分なりの考えとその根拠をしっかりともち、ノートに書く

□比較

- ・学習形態を工夫して、自力解決したことの情報交換をする。
- ・他の事象と関連づけて深める。
(教材や立場を変えて見方を変える)
※発展的な指導や補充指導
※ディベート的な話し合い
※ロールプレイ、シミュレーション等の活用

- ・調べたことを比べたり、合わせたりしながら、学習問題に対する答えを考える

□整序

- ・見つめ、とらえ直し、自分の考えの再構成を図る
(学習問題に対するまとめをする)
- ・別の角度から見つめ直し、立ち止まって考える。
- ・自分ができることの意志決定をする。
- ・日常化・オープンエンド、総合的な学習への関連や発展等を工夫する。

- ・友達の発表と自分の考えを関連付けて、新しい課題をもつ

6. ノートの作り方・ノート作りのステップ

社会科ノートの作り方

① 学習問題をたてる

② 予想を書く

~~~~~ 調べ学習始まり ~~~~~

👉 調べ学習で自分や友達が予想したことを確かめよう！

③ 調べた資料を書く → 〈社会科資料集p43資料②〉

④ 調べてわかったことを自分の言葉でまとめる

■図 ■表 ■グラフ ■地図 ■箇条書き など

⑤ 事実に対して自分が考えたこと・予想したことを書く  
(1つずつ書くと、ひとまとまりで書くときがある)

※③～⑤をくり返す

~~~~~ 調べ学習終わり ~~~~~

⑥ 調べてわかったことをまとめる

まとめ

■学習問題の答えになっている

■調べた事実全体から言えることを文章でわかりやすく表現する

⑦ この学習の感想を書く (内容に関わること)

■感じたこと ■疑問に思ったこと ■もっと知りたいこと など

矢印法を使おう

「なので」「しかし」などの言葉は矢印に置きかえて文をつなごう

↓ (そのほうが)

文章がすっきりしてわかりやすい

5・6年 A5版 ノート表紙内側にはる

社会科ノート作りのステップ

■自分ができているのはどこまでかな？

■次はどんなことができると、よりよいノートになるかな？

① 教科書・資料集のどこを調べればよいかわかる

② 資料から必要な情報を集めノートに写すことができる

③ 調べたことを自分の言葉に直して書くことができる

④ 調べたことに対し自分の考えや予想を書くことができる

⑤ 調べたことや話し合ったことを自分の言葉でまとめることができる

⑥ よい視点で自分の考えや予想を書くことができる

①昔・今・未来 ②自然条件 ③人々の思い

⑦ 自分で用意した資料などを使ってわかりやすくまとめることができる

5年 A5版 ノート裏表紙内側にはる

(1) 実践単元 5年「低い土地の暮らし」

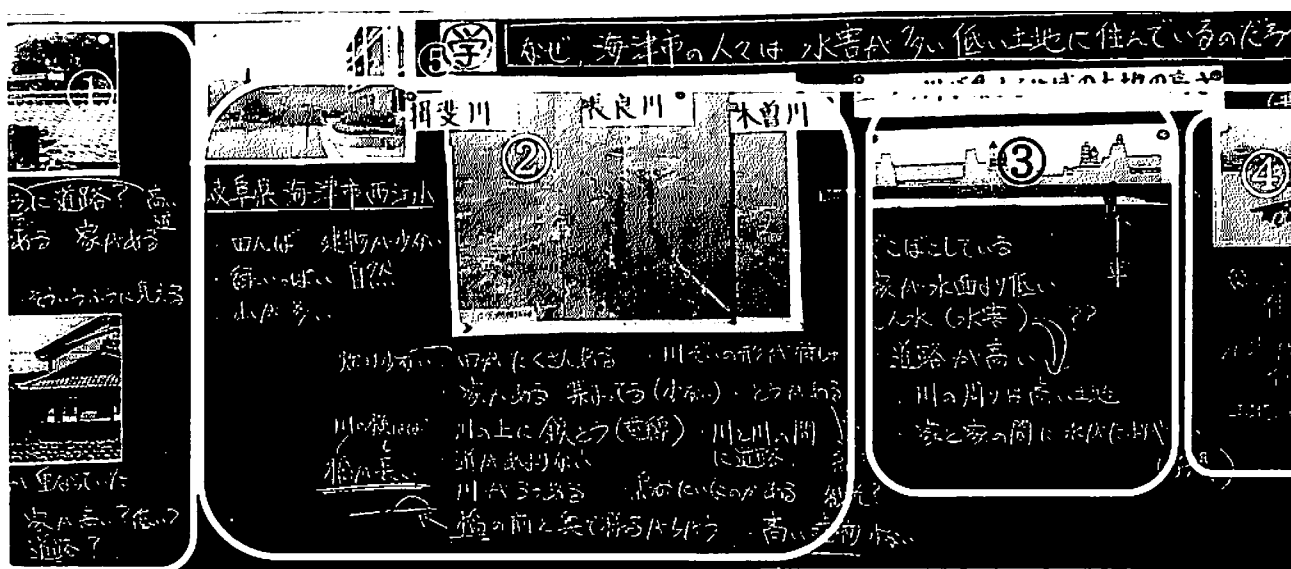
①家の屋根と同じ高さに車が走っている写真から低い土地のくらしを想起させる。

③断面図から水害の恐れを想起させる。

④昔の海津市の水害の写真を掲示することで、「やはり水害が多い地域」だということを認識させる。そして子どもたちは、「今は大丈夫なのかな?」、「普通に生活しているみたい」、「でも何でこんな水害のある地域なのに住んでいるんだろう」という思考に移り、矛盾から疑問が生まれた。

⑤子どもから生まれた問題意識をもとに、子どもたちと学習問題を設定した。

学習問題の設定にあたり、「なぜ」「どのように」「どのような」などの「疑問詞」を含めることで子どもたちの思考を促し、理解を深めさせる効果があった。



水に屋は、水と川が運
ばれた米香の土地
月した米づくりがさ
かん

子どもたちの「なんでだろう」「知りたい」「調べたい」という意欲が高まったことで調べ学習も意欲は継続し、「まとめる」で答え合わせをするのを楽しみにしていた。

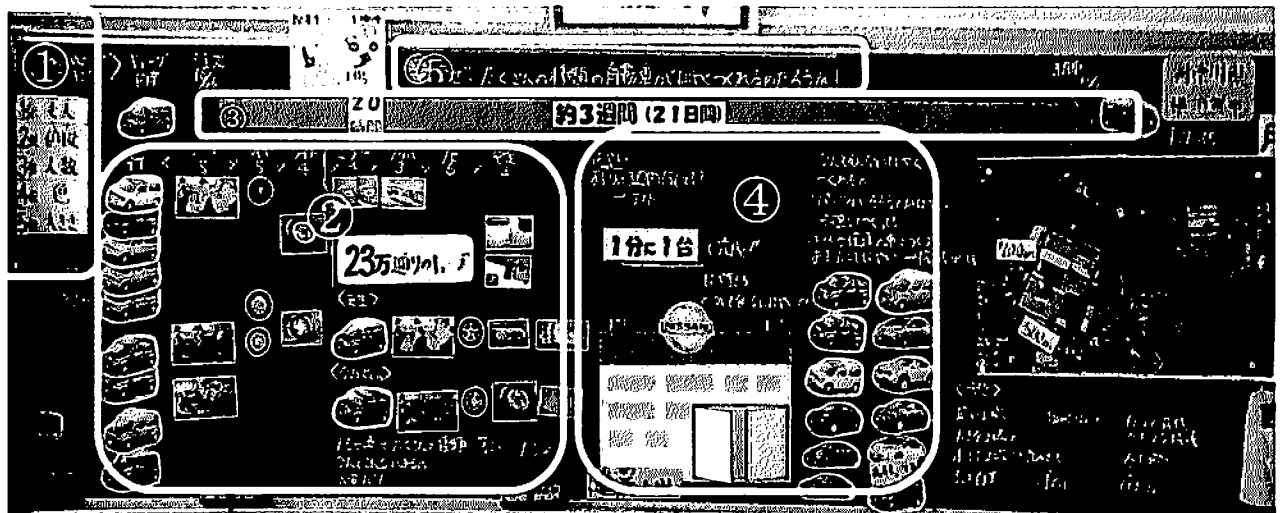
子どもたちは調べた事実に対して、自問自答しながら考えを深めている。

問題意識の高い学習問題の設定が、調べ学習の時間を充実させ、主体的に学ぶ姿をつくった

(2) 実践単元 5年「自動車をつくる工業」

手立て①：事象観察・問題構成場面の工夫

- ①車を買うときに選ぶポイントの実態調査から、買うときのニーズランキングにした。
- ②キューブを例にし、1台の車だけでも色やタイヤシートなどの部品を、消費者のニーズに合わせて作ることで「23万通り以上」のキューブが作られることを知り子どもたちは驚いた。
- ③「日産のお店で自動車の注文を受けて、工場で作って、消費者のもとに届くまで、どれくらいかかると思う？」という質問に、キューブの例を見て「とても時間がかかりそう」や「早くても1ヶ月かな」と自分の家の生活経験を根拠に予想する子どもがいた。届くまでの時間（約3週間）に対し、実際に作られている時間（20時間）の短さに、驚く声があった。
- ④追浜工場では実際に1分に1台の車が完成されて工場から出てきていることを伝え、実際に作られている様子を表した。すると子どもたちはキューブ以外の車も作られていることに気がついた。「キューブ以外の車が作られることは不思議なことではない」が、「工場の中では多種類の車が作られている」、さらに「車は1台1台が色や部品が異なる場合もある」ことから、「車にはたくさん種類があるのに、どうしてこんなに早く作れるんだろう？」という問題意識が生まれ、学習問題を設定した。
- ⑤子どもから生まれた問題意識をもとに、子どもたちと学習問題を設定した。



手立て②：ノートの作り方・ノート作りのステップをもとにしたノート指導の充実

鉄板で大きな部品をつくる。
もととなるものをい
て鉄板にカッターで
はきとる。

だから1台つくる
のに1分ベースで
つくられる。

この授業後、実際に追浜工場を見学し、自力解決にも役立てたため、子どもの意欲はいつも以上に高かった。

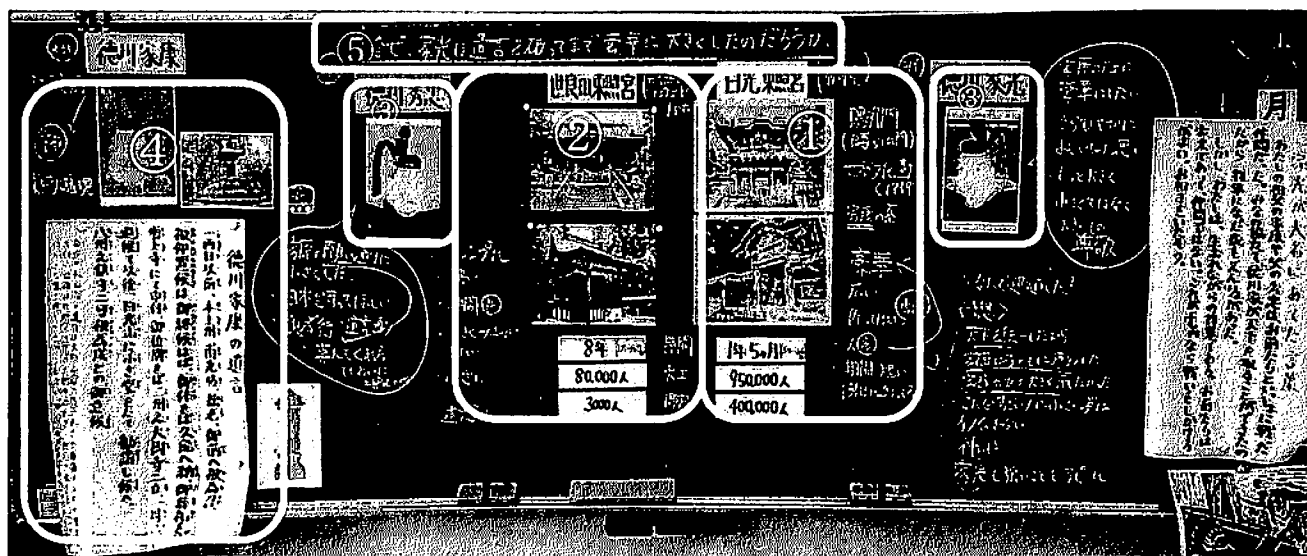
常に学習問題の答えを意識して調べ学習をすることで、問題解決力が高まっている。

まとめの内容から問題意識が続いていたことがわかる。

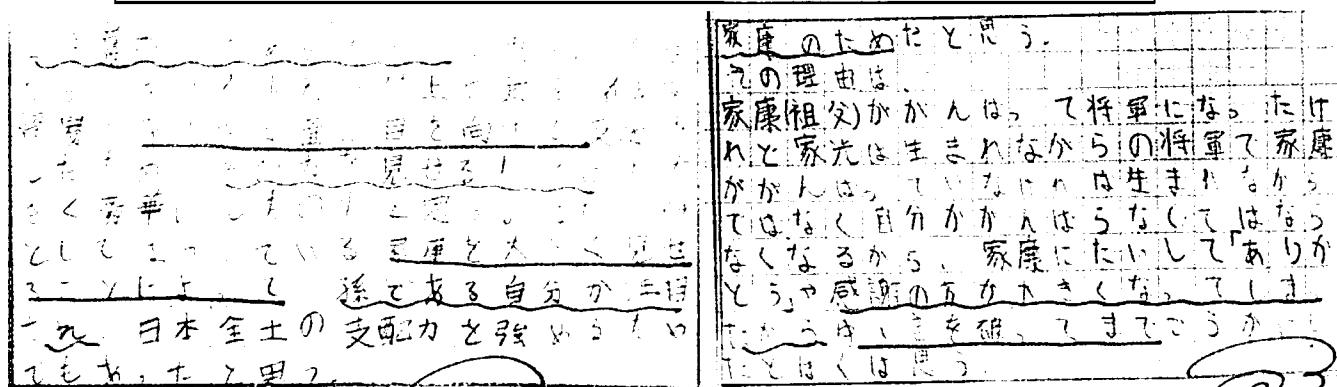
(3) 実践単元 6年「江戸幕府と政治の安定」

手立て①：事象観察・問題構成場面の工夫

- ①修学旅行後に行ったばかりのため、日光東照宮のイメージが鮮明に残っている。
- ②「世良田東照宮」という名前から日光との関係を想起させ、2つの東照宮を比較させる。世良田の印象は「質素でシンプル」に対し、日光は「大きくて豪華」であった。
- ③次にそれぞれが建てた人物を紹介し、「世良田は徳川秀忠」、「日光は徳川家光」という事実から子どもたちは、「家光が新しく豪華に建て直したんだ」という認識をした。
- ④次に徳川家康の遺言を紹介する。遺言の読み取りから、家康は「小さな墓を建てるように」と遺言を残している事実を知り、子どもたちの中に「遺言には小さな墓を建てるように書いてあるのに、なんで大きく豪華に建て直したの？」という疑問が生まれた。
- ⑤子どもから生まれた問題意識をもとに、子どもたちと学習問題を設定した。



手立て②：ノート作り・ノート作りのステップをもとにしたノート指導の充実



江戸幕府・自分のため

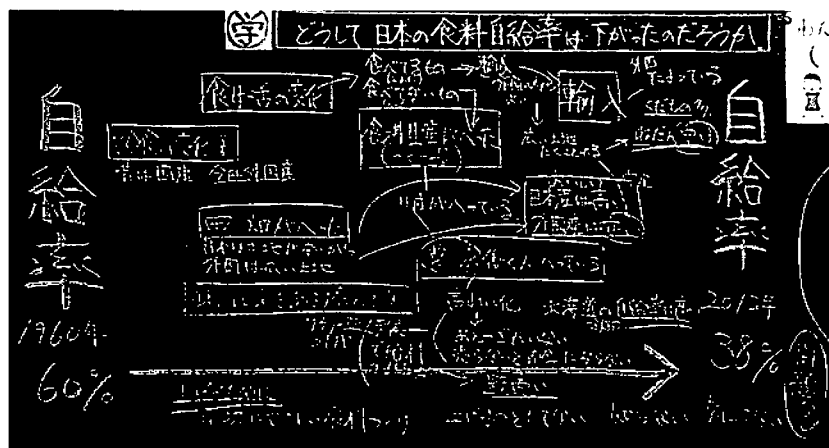
家康のため

今回設定した学習問題の答えは、家光の思いによるところが大きいので、教科書の調べ学習ではどうしても答えを導き出しにくい。結論に悩む児童が多かったが、調べた事実をもとに、それぞれが自分の考えを深めることに繋がった。

(4) 実践單元 5年「これからの食料生産とわたしたち：バーチャルウォーター」

手立て③：「まとめる」の展開の工夫

食料自給率低下の課題は、様々な条件が重なって引き起こされたものである。食文化の変容からも現状を維持するだけでも大変なことであるが、新たな視点を与えることで子どもたちの問題意識は高まり、自分ごととして捉えて自給率の問題を考えるようになった。



新たな視点（バーチャルウォーター）を与える

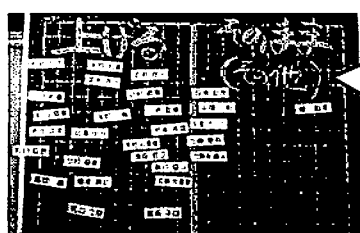


①パーチャルウォーターとは、輸入している食料の背景には多くの水が使用されているという考え方で、外国からの輸入が多い日本は、外国からものすごい量の水を輸入しているということになる。

②アメリカ、オーストラリア、カナダは肉の輸入が多いため、水輸入が多いことになる。

③世界には水不足の国が多いことを取り上げた。

④以上のことを新たな視点として与え、日本は食料自給率の問題にどう向き合うべきか、今一度考える課題を与え、ディベートを行った。

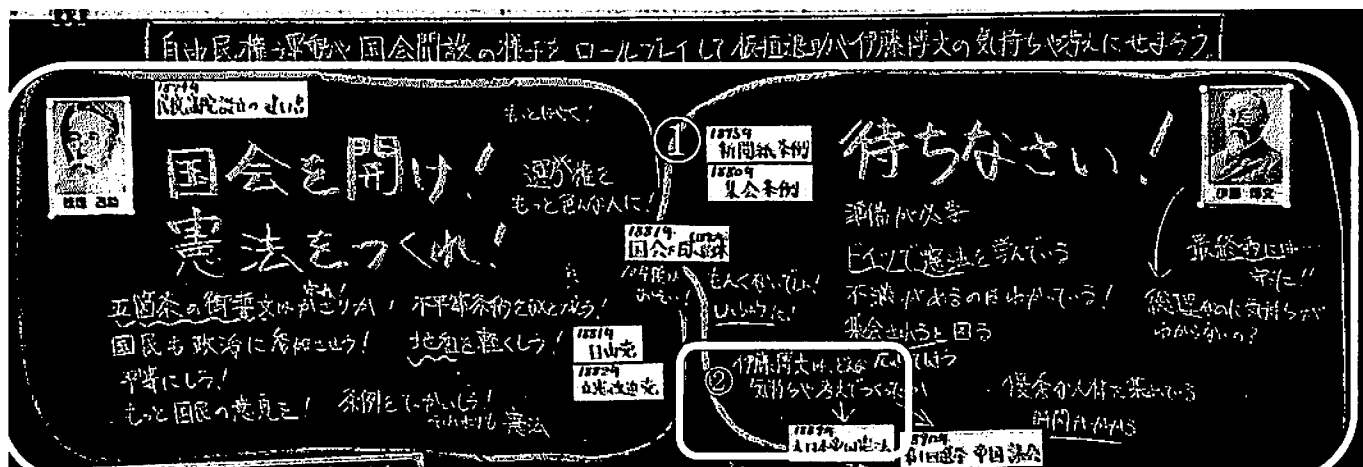


自給率を上げることが難しいにもかかわらず、上げるべきという考えが高まった。また、自給率を上げるための方法が具体的になり、実現可能なものへと変わった。食料自給率の問題が身近な問題になった。

(5) 実践単元 6年「明治の国づくりを進めた人々：ロールプレイ」

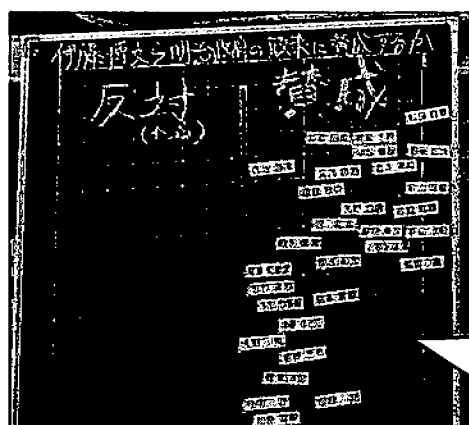
手立て③：「まとめる」の展開の工夫

明治維新を経て、西欧諸国に負けない国づくりが進んで行くが、富国強兵を掲げる様々な政策には民衆の不満が高まっていく。学習を進めていく中で、子どもたちの気持ちは民衆よりになり、明治政府に不信感をもつようになっていた。そこで発展としてロールプレイを取り上げ、自由民権運動（民衆）側と政府側と、それぞれの立場を経験させる体験をさせた。すると今までは政府側として深く考えなかった子どもたちが考えるようになり、最終的には、明治政府の政策に対する理解が生まれた。



①ロールプレイは歴史の流れから、自由民権運動側の板垣退助の主張から始まる。続いて伊藤博文ら政府側の主張になり、その後は入り混じる展開になっていく。次に立場を入れ替えてもう一度ロールプレイを始める。

②最後に伊藤博文がどんな気持ちで国会開設や大日本帝国憲法を施行したか考えさせた。改めて違う視点から考えることによって、歴史の見方が変わったのである。



ロールプレイのポイント

5W1Hで聞き返すことで、子ども同士の切り返しが活発になる

前時のまとめの段階では、国会開設や大日本帝国憲法が施行されるも、まだ明治政府の政策に不満を感じていた子どもたちも、ロールプレイ後には、賛成側に傾く結果となった。子どもたちの感想からも考えが深まったことが読み取れる。

| 〈感想〉 | | | | | | | | | |
|------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 最初 | は | 、 | 政 | 府 | に | 少 | し | 不 | 満 |
| れ | で | 、 | し | ん | ち | う | に | や | る |
| 理 | 由 | が | あ | っ | て | 、 | た | だ | 自 |
| な | が | 、 | た | こ | そ | が | あ | っ | て |

明治政府の政策に対する理解が深まった感想。

8. 成果と課題

(1) 成果

- 本校は長年にわたって社会科を研究している学校であるため、研究した単元だけでなく、日頃の実践を大切にしてきたからこそ、子どもたちの主体的な学びが見られた。
- 問題意識を高めて学習問題を作ることに重きを置くことで、単元としての問題意識が継続され、主体的な自力解決や「まとめる」展開の深まりに繋げることができた。
- ノート指導において、調べたことの分析を十分にさせることで、自分たちの考えを整理させる時間になり、子どもの主体的な学びを促すことができた。
- 「まとめる」の展開では、新たな視点を与える教材を示すことで、子どもたちの考えを深めることができ、子どもが主体的に学ぶ場となった。

(2) 課題

- 学習問題を設定する授業は毎回成功するわけではなかった。資料の精選や準備、順番は難しく、子どもの問題意識が低いまま調べ学習に進むこともあった。また同じ資料が使えるとも限らないため、今後も研鑽していく必要がある。

9. 参考資料

- 『2016 八千代市立大和田南小学校 実践のまとめ』 編集：八千代市立大和田南小学校
- 北 俊夫『知識の構造図を生かす問題解決的な授業づくり』 明治図書